

京都大学総合博物館

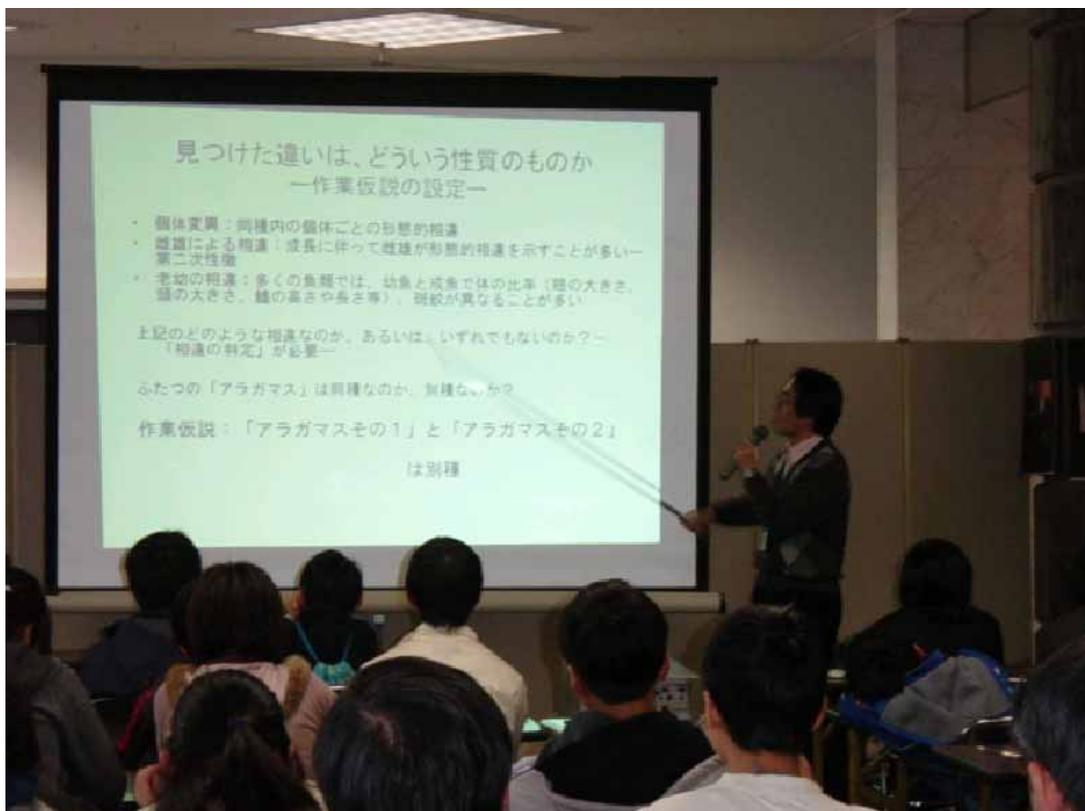
ひらめき ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～
KAKENHI

日本の動物はいつどこからきたのか

(平成 17 年 12 月 10 日)

日本学術振興会 研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき ときめきサイエンス」のプログラムとして、科学研究費補助金をもとに行った研究成果をわかりやすく紹介するため、京都大学総合博物館において講演、観察・実習等を行いました。当日は中学生と高校生46名及び保護者の参加がありました。

午前中に行った2題の講演は科学研究費の成果の内容を中心にしたものであり、用語などは中学生・高校生にもわかるように十分に配慮し、成果をわかりやすく紹介しました。研究の全体的な内容や意図が十分に伝わったようです。



[講演]

昼食は大学生協でとりました。各自自由にメニューを選んでもらい、同席した2名の教員、1名の博士号取得研究者、5名の大学院生、2名の大学生、1名の外国人研究員たちとの話も盛り上がり、楽しい時間となりました。

午後は、魚類の観察実習を1時間行いました。今年になって新種として記載されたばかりの魚を前に、標本の観察とスケッチに参加者は真剣に取り組んでいました。大学院生などのサポートにより、丁寧な指導ができたことも成功の一因であったと思います。



[実習]

その後は、1時間をかけて総合博物館の収蔵庫と企画展の見学を行いました。日頃見ることのできない大学博物館の収蔵庫にふれ、大学博物館が展示だけでなく、標本の収蔵と活発な研究活動を行っていることを知って驚きと喜びがあったようです。企画展はテーマが同じ動物地理学に関連するものであったため、たくさんの展示標本を前に、いろいろな質問が飛び交いました。これらの見学も大学院生などの十分なサポートによってきめ細かな解説ができたと思います。

その後のクッキータイムでは、6名くらいのグループに大学院生などの1名が加わり、またインタビューも交えながら、会話も盛り上がりました。オーストラリアからの外国人研究員とも英語で積極的に質問する参加者の姿が見られました。



[クッキータイム]

修了式では館長から一人ずつに直接「未来博士号」の修了証書と記念品が手渡され、参加者は喜んで帰途につきました。